

経済・金融 フラッシュ

景気ウォッチャー調査 12年9月 ～現状判断DI、先行き判断DI共に前月から低下

経済調査部門 研究員 押久保 直也

TEL:03-3512-1838 E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

景気ウォッチャー指数

	景気ウォッチャー調査 現状判断DI				景気ウォッチャー調査 先行き判断DI			
	合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
11年1月	44.3	42.4	44.3	56.7	47.2	46.6	46.6	52.9
2月	48.4	47.3	46.9	58.9	47.2	47.1	44.9	53.2
3月	27.7	25.3	30.6	37.3	26.6	25.9	26.2	31.9
4月	28.3	27.1	29.3	33.8	38.4	38.7	37.3	39.0
5月	36.0	36.3	34.7	36.6	44.9	44.8	43.3	49.3
6月	49.6	49.8	47.3	53.4	49.0	47.9	48.9	57.0
7月	52.6	51.8	51.7	59.5	48.5	46.4	49.9	58.7
8月	47.3	45.2	48.3	58.4	47.1	45.4	48.3	55.3
9月	45.3	43.2	46.0	58.4	46.4	46.1	44.7	51.7
10月	45.9	44.5	46.1	54.8	45.9	46.1	43.0	51.0
11月	45.0	43.6	45.4	53.0	44.7	44.3	43.3	50.5
12月	47.0	46.5	45.4	54.9	44.4	43.8	43.5	50.6
12年1月	44.1	42.8	42.6	55.5	47.1	46.6	47.2	50.7
2月	45.9	44.4	44.8	57.7	50.1	49.9	49.0	53.5
3月	51.8	51.1	51.0	58.1	49.7	49.3	48.8	54.3
4月	50.9	50.3	48.7	59.6	50.9	50.6	49.8	55.9
5月	47.2	46.4	45.9	55.2	48.1	47.7	47.7	51.6
6月	43.8	42.1	44.4	53.9	45.7	44.5	46.8	50.8
7月	44.2	42.8	44.8	52.1	44.9	43.9	45.8	49.4
8月	43.6	42.1	44.0	52.5	43.6	42.6	45.0	47.6
9月	41.2	40.2	40.0	50.8	43.5	44.1	41.3	44.9

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

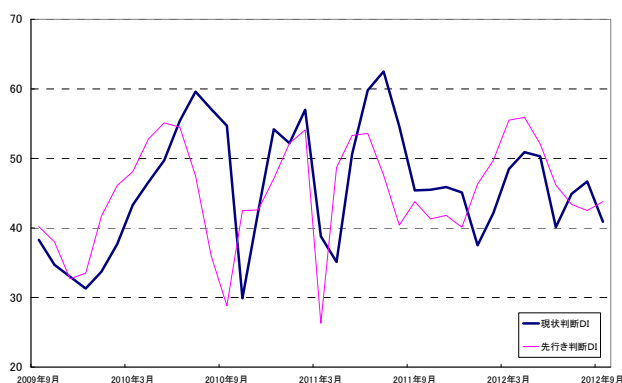
1. 景気の現状判断DI動向：2ヶ月連続の低下

10月9日に内閣府から発表された2012年9月の景気ウォッチャー調査によると、景気の現状に対する判断DIは41.2となり、前月を2.4ポイント下回り2ヶ月連続の低下となった。

項目別に見てみると、家計動向関連は、40.2ポイントと前月より1.9ポイント下回った。これは「今月は度重なる台風の到来で離島便が止まった分、かなり販売量が落ち込んでいる。3か月前からすると販売量はほぼ横ばいであった。特に際物の敬老の日や十五夜、彼岸関係の売上が前年実績を下回っている。」(九州＝コンビニ)など、大型台風が日本列島を襲ったことを受け、商品の販売量が落ち込んでしまったことが影響していると考えられる。コンビニエンスストアのDIは40.9ポイ

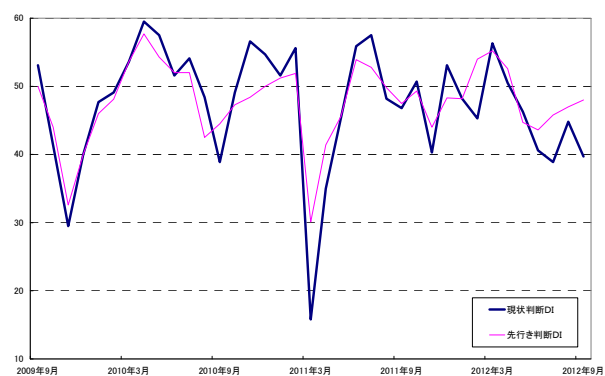
ントと前月より5.8ポイント下回った。そのほか百貨店において、「中旬以降までの夏日の影響で、秋物商材への関心はあるが、購入まで至っていなかった。しかし、20日以降の気温の低下で徐々に動き出している。ただし、昨年までの動きには至っていない」（南関東＝百貨店）など、9月に入ってから夏日が続いたことで秋物商材の売れ行きが悪くなかったことが影響していると思われる。百貨店のDIは39.7ポイントと前月より5.1ポイント下回った。そのほか旅行・交通関連において、「領土問題の影響で韓国への旅行は前年比で半減、中国行きは団体を中心にほぼ中止や延期となっている。海外出張も両国に関しては大幅に減少している。」（九州＝旅行代理店）など、領土問題を巡る中国・韓国との緊迫した情勢に伴い、両国向けの旅行者数が減少したことが影響していると思われる。旅行・交通関連のDIは39.2ポイントと前月より4.9ポイント下回った。

コンビニエンスストア



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

百貨店



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

企業動向関連は、40.0ポイントと前月より4.0ポイント下回った。これは「超円高、海外市況（特に欧州）の悪化の影響で、輸出環境は相変わらず厳しい状況が続き、前年同月比で受注が大幅に減少している。国内市場についても受注環境が厳しい。輸出・国内とも加工賃の下げに対する要望が強い」（北陸＝繊維工業）など、世界経済の減速や円高による輸出競争力の低下に伴い、製造業を中心に多くの企業の受注が悪化していることが影響していると思われる。そのほか「尖閣諸島をめぐる中国との関係悪化により、中国との物流が悪化している。」（東海＝輸送業）など、領土問題を巡る中国との緊迫した情勢を受け、中国との取引に悪影響が及んでいるとみられる。製造業は37.3ポイントと前月より4.3ポイント低下している。

雇用関連は、50.8ポイントと前月より1.7ポイント下回った。これは「大手製造業の求人意欲が減退している」（近畿＝民間職業紹介機関）など、世界経済減速の影響を受け、生産活動が悪化していることが影響していると思われる。

また、地域別に見てみると、景気の現状に対する判断DIは全国11地域で対前月比低下した。最も低下幅が大きかったのは沖縄（6.6ポイント低下）、最も低下幅が小さかったのは近畿（0.8ポイント低下）であった。沖縄は家計動向関連の指標が5.1ポイント落ちており、度重なる台風の襲来を受け、売上が大きく落ち込んだことの影響と思われる。一方、近畿は景況感があまり良くないものの、消費増税を受けた駆け込み需要が住宅業界を中心に高まっていることから、最も低下幅が小さかったとみられる。

2. 景気の先行き判断 DI 動向：5ヶ月連続の低下

景気の先行きに対する判断 DI は 43.5 となり、前月を 0.1 ポイント下回り 5ヶ月連続の低下となった。

項目別に見てみると、家計動向関連は、44.1 ポイントと前月より 1.5 ポイント上回った。これは「これから年末にかけて宴会や忘年会、おせち料理等色々な注文が入り、景気は良くなる」（九州＝高級レストラン）など、忘年会等年末の大きなイベントが開催されるに伴い、売上の伸びが期待されることが影響していると思われる。そのほか、「消費税増税法案が可決された影響か、来場数は増えていると思う。今後、受注増につながっていくのではないかと予想する」（四国＝住宅販売会社）など、2014～2015年の消費増税の決定に伴い、駆け込み需要

が高まっていることから住宅業界の先行きに明るい兆しが見えていることが影響しているとみられる。ただし、住宅関連の DI は 47.9 ポイントと前月より 5.8 ポイント下回った。一方で、「日中、日韓関係の問題によって、中国、韓国への旅行客数は間違いなく減ってくる。」（東海＝旅行代理店）など、領土問題を巡る中国・韓国との緊迫した情勢に伴い、海外旅行者数の減少が今後も続くことへの懸念もみられる。

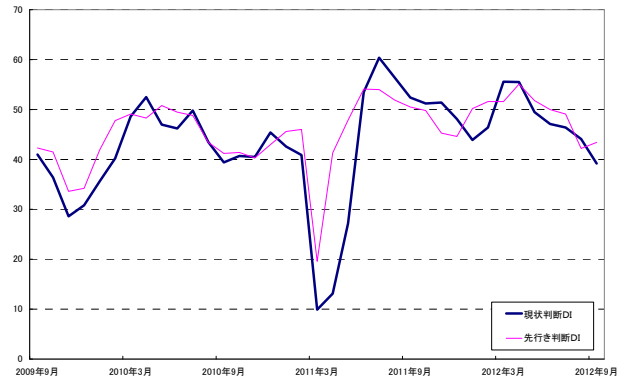
企業動向関連は、41.3 ポイントと前月より 3.7 ポイント下回った。これは「国内需要が増加していないことに加えて、中国や韓国への輸出も、国際情勢の悪化により減少が予想される。そのなかで、中国向け自動車の減産に関するニュースがあり、当地域のマインドは一気に冷え込んでいる」（東海＝鉄鋼業）など、エコカー補助金が終了し、復興需要への期待感も薄らいでいる中、中国・韓国との緊迫した情勢が両国との取引に大きな悪影響を及ぼしていると考えられる。

雇用関連は、44.9 ポイントと前月より 2.7 ポイント下回った。これは世界経済減速に伴う受注減や緊迫した外交情勢により、多くの産業で求人意欲が低下していることが影響しているとみられる。

また、地域別に見てみると、景気の先行きに対する判断 DI は全国 11 地域中 3 地域で対前月比低下し、8 地域で対前月比上昇した。最も低下幅の大きかったのは近畿（2.7 ポイント低下）、最も上昇幅が大きかったのは東北（3.7 ポイント上昇）であった。近畿では世界経済減速に伴う大手電気メーカーの大型リストラや中国からの観光客が減っていることから、景気の先行き判断 DI が低下している。一方、東北では今後も耐震工事など新規発注工事が増え続ける見込みであることから景気の先行き判断 DI が上昇している。

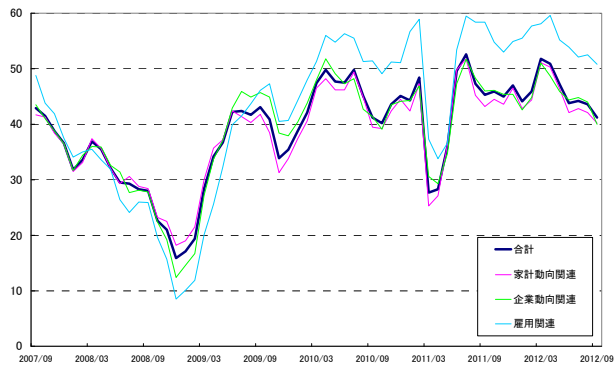
2012年9月の調査では現状判断 DI、先行き判断 DI 共に前月を下回った。領土問題を巡る中国・韓国との緊迫した情勢に起因する経済活動への悪影響、消費税引き上げによるマインド低下への懸念、欧州債務問題の不透明感と世界経済の減速に伴う輸出の減少、エコカー補助金終了後の反動減の見通しなどを受け、景気は足踏み状態になっている。

旅行・交通関連



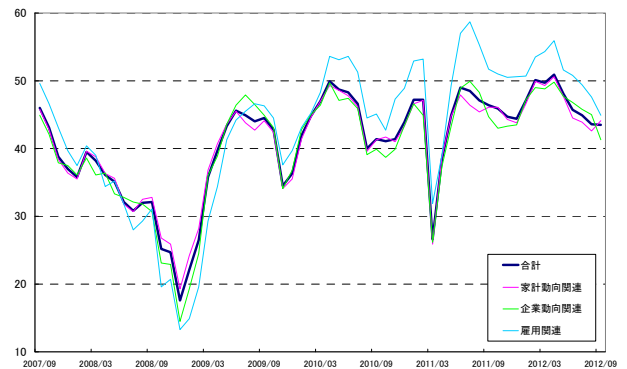
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の現状判断D I の動向（項目別）



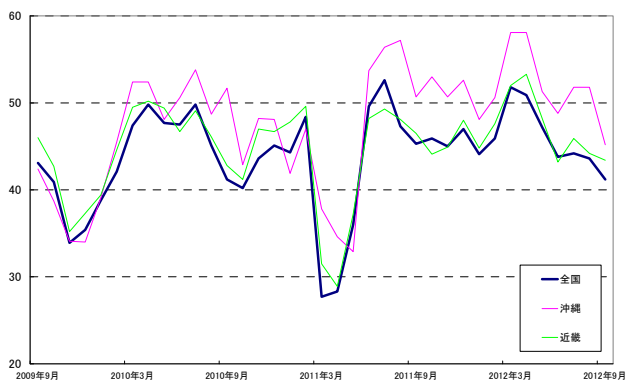
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の先行き判断D I の動向（項目別）



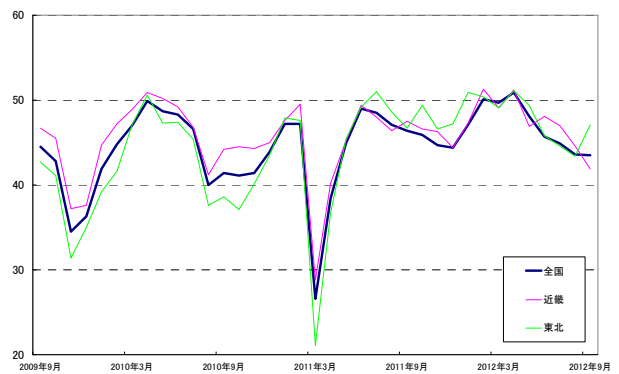
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の現状判断D I の動向（地域別）



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の先行き判断D I の動向（地域別）



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。